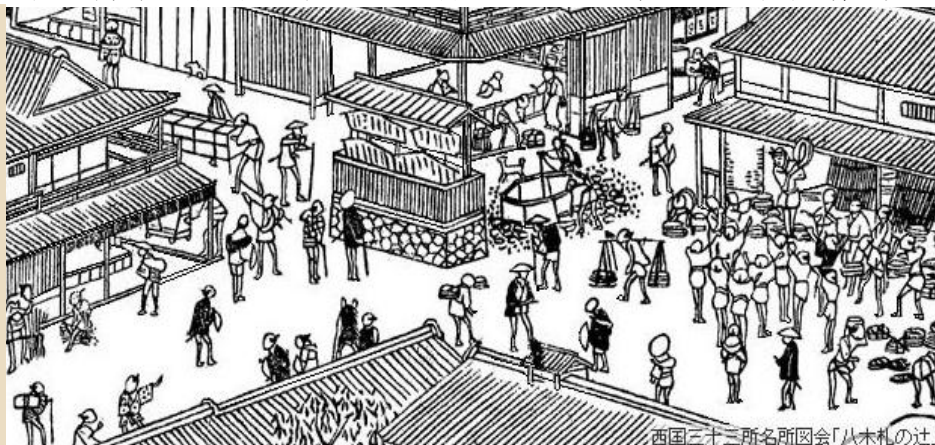


大和八木 まちづくり 新聞

No.07
2012
10月号

特定非営利活動法人八木まちづくりネットワーク



西国三十三所名所図会「八木札の辻」

NEWS

■ 7/14 八木 札の辻交流館オープン

札の辻の旅籠（旧東の平田家・市指定文化財）が「八木札の辻 交流館」として7月14日（土）オープンしました。

旅籠（はたご）という言葉を知ると、何かしらそこでは楽しい事がありそうない響きを感じます。旅籠という言葉はもともとは馬の飼料を入れる籠（かご）のこと。それが転じて宿屋で出される食事の意味になり、食事を提供する宿屋のことを旅籠と呼ぶようになったそうです。

今夏の愛宕祭の三日間、夜には交流館に灯がともされ、館内に響く賑やかな声や姿があると、自然と往時の賑わいが想像できます。また交流館を通して八木の興味深

い歴史を感じ、楽しい時間がすごせることができました。

今後、交流館の見学を終えた方に、町の楽しい事、こんな祭が、こんな神話が・・・と町のひとが話しかけ、まるで交流館が地域のガイドブックであるかのように活用できたらと思います。

■ 8/23-25 愛宕祭

今年は初日の8月23日（木）が思わぬ雨で少し氣勢がそがれた分、残り二日間は大勢の人出があり、今年も楽しく賑わいました。これも愛宕祭奉賛会・八木地区自治会など関係者の方々の祭りにかける意気込みの表れだと感じました。八木の歴史と共に築いてきた伝統の「愛宕祭」、やはり自慢の祭りです。

■ 愛宕祭、祠のお供え物「御膳」



これは南八木の祠の供え物のひとつで、1番上がするめ、2番目が扇形に作った昆布、その他茶色がシイタケ、四角いのが高野豆腐、丸いのが麩、グリーンがオクラ、かんぴょう、なすび、ぷちトマトです。里芋の頭とズイキを土台に竹串やつまようじに挿した物を差し込みます。その年の当（とや、愛宕祭の当番）が飾り付ける習わしです。

昔下ツ道沿いで乾物屋さんをされていた西村さん（南八木2丁目）によると、飾り方は西村さんが嫁いで60年変わらないが、最近では毎年、西村さんが作られているようです。

町の火伏せと安心、安全を祈る祠の「御膳（ごぜん）」は伝統の愛宕祭を支える地域が受け継いできた習わしです。



畝傍高校校舎が登録文化財に

岩崎平太郎設計、仏塔を冠した近代建築



畝

傍高校は八木の東部、藤原宮にも近く、畝傍山・天香久山・耳成山の大和三山が指呼の間にあるなど、歴史的な環境に恵まれた

地に建っています。

畝高はその前身である奈良県尋常中学校畝傍分校として明治29年に開校。県下では郡山中学校(現郡高)に次ぐ古い歴史を持ちます。開校当初は晩成小学校の一部を仮校舎としていましたが、翌年、現在の八木西口駅東側に新校舎を建設し、その後明治34年には奈良県立畝傍中学校と改称しました。(↓『改築落成記念』(昭和8年 奈良県立畝傍中学校発行))



その後、昭和8年に現在地に移転しましたが、昭和20年に海軍経理学校へ校舎を貸与したため、再び晩成国民学校への移転を経て、同年8月終戦に伴い現在地に戻りました。昭和23年に奈良県立畝傍高等学校となり、現在に至っています。

設計の実務は、岩崎平太郎が行ったとされています。岩崎は下市町に生まれ、武田五一の事務所を拠点として活躍し、昭和6年、奈良県技手となり畝傍中学校の設計を担当しました。和風を得意としましたが、同時に鉄筋コンクリートの構造設計もできたとされています。

終戦を経て、高等学校となってからは毎年のように増改築が行われ、昭和61年になると旧雨天体操場、格技室となっていた旧武道場南側を取り壊し、小体育館と新南館を建設

するとともに現在の第一史料館を建設しました。さらに平成元年には格技場、体育研究室等を新築、平成8年には校舎西側の講堂を解体し、文化創造館を建設するとともに第二史料館を建設して現在の姿となりました。

本館は鉄筋コンクリート造3階建、屋上を持つ陸屋根の四周は本瓦葺の庇付きパラペットとし、北側を正面としてやや西寄りに玄関車寄せを突き出しています。玄関奥には階段室を配し、階段室正面側外壁は3層を貫いて塔状に造り出し、頂部は宝形造、本瓦葺の塔屋として、屋根頂部に相輪を据えています。

外壁は基材に茶色砂を用いた洗い出し仕上げとし、車寄せ玄関開口部の額縁には凝灰岩を用いています。内部では、床はナラの板張り仕上げ、壁面はナラの腰板を横に張り、上部はプラスター塗り仕上げとし、階段部は、床・手摺を人造石研ぎ出し仕上げとしています。

本

館の意匠については、『改築落成記念』によると、建築様式を「東洋趣味ヲ加味セル近代式」としており、北館及び南館では、基壇風に目地を入れた一階腰壁上方に、縦長窓と詰めた連子を模した壁飾りを並べ、3階窓下にコーニス(水平飾り)を廻して上方は単純化したピラスター(付け柱)を配置しています。写真↓は南館南面。



当建物は洋風建築の構成を持ちながら、校舎の上部には仏塔風の塔屋を含む本瓦葺屋根を載せるほか、随所に和風の表現が

見られる和洋折衷様式の建物といえます。

県下に現存する鉄筋コンクリート造校舎としては最古で、校長室に「奉安庫*」が完全な形で残るなど竣工当初の姿を良く残しており非常に貴重な建物であるとのことで、国の文化審議会が平成24年4月20日行われ、文部科学相に答申し、校舎本館北館・南館・渡り廊下と木造の第三倉庫(旧動力庫)の登録が決まりました。

本館南北館は現在の耐震基準にも叶う頑丈な設計となっていることが近年の調査でも立証され、渡り廊下は、今秋耐震補強改修工事が終了しました。

この校舎誘致にあたって、学校の全部の土地を町の人々が寄贈した事によって畝傍中学校は八木に決定されました。八木の町の人々の教育への熱意が実った結果とされています。今後も大事に活用されることが望まれています。



第

三倉庫↑は、昭和8年の竣工当初は「動力庫」でした。当建物には学校全体の受電盤を供えただけでなく、配電室、蓄電池室、交流変電室

の役割をになった建物であったようで、このため南館に配された化学、物理、生物の準備室直近に建設したと考えられます。

構造は、鉄筋コンクリート製の丈の高い布基礎を配して腰壁とし、土台を据えて木造軸部を建て、架構はトラス組としています。出入口は板戸引違とし、北妻では庇を設け、南妻では南館への渡り廊下が接続していますが、



現在は封鎖されています。いずれの時期にか、倉庫へ転用され現在に至っています。

当建物は附属建物ではありますが、当初の姿を良く残しており、小品ながらも昭和初期の洋風建築の好例であるといえます。

登録されませんでした。西側の柵は鉄筋コンクリート造で、地覆上に柱を建て、上方に欄干を付けた簡素なもので、校舎と同じ、洗い出し仕上げとしています。現在柱間に2丁ずつ束がありますが、旧はこの束がなく、山形鋼が横に3段柱間を渡っていました。が、戦時中に金属供出され、今は痕跡だけが残っています。供出後と現在の写真↓。



朝

礼台は鉄筋コンクリート造の箱型で、中央通路、運動場間の段差に設けた階段を切り込み、本館玄関と軸線を揃えて配しており、後方は袖壁付きの擁壁で、校舎建設当

初に近い建設のもので。↓



残念ながら、正門は当初のものではなく、建て替っています。

*奉安殿(ほうあんでん)とは、第二次大戦中まで、各学校で御真影や教育勅語などを収めていた建物。(御真影とは、天皇・皇后の公式の肖像写真。宮内省から各学校に貸与され、校長の責任で厳重に管理、儀式に使用された。昭和20年(1945)の終戦時までの用語。)

今年の愛宕祭では春日神社でNPO法人八木まち創り会作「畝傍高校登録記念」の立山が作られました。3D疑似体験型のペーパーワークで楽しいものでした。↓



最近には畝傍高校の施設を利用した公開イベントも多くありますので、子供の頃、畝傍高

校で遊んだなど思い出のある方など、機会があればご覧下さい。



写真は、南館屋上から見る北館と耳成山←と戦前と思われる畝傍高校と校庭↑。

(記念誌資料及び写真提供はNPO会員)

書籍の紹介

『近代奈良の建築家 岩崎平太郎の仕事-武田五一・亀岡末吉とともに』

川島智生著、淡交社刊



岩崎平太郎(1893~1984)は明治末期から昭和期にかけて関西、主に奈良県を中心に活躍した建築家で、畝傍高校の設計にも関わりました。

その他、奈良女子大学の佐保会館など、奈良県下で登録文化財の指定を受ける近代建築のうち2件が岩崎の設計による建築であり、奈良県で最初に建築事務所を開設するなど奈良にゆかりの深い平太郎の建築業績を、現存する建築と岩崎家に伝存する平太郎筆の図面や資料を通じて紹介、合わせて平太郎の師匠である建築家の武田五一や亀岡末吉との交流・関係についても検証する本です。(掲載許諾済)

八木のいろいろ情報

★HANARART 「八木 札の辻」

奈良県内には魅力的な町家や町並みがたくさん存在しています。

町家の魅力もさまざま、存在感のあるオーラを出し、堂々とした雰囲気のある町家、前に立つとすーと吸い込まれそうな優しい佇まいの町家、今は空き家になって少し寂しげだけど気品のあるお宅、店の間に座ってみたくする歴史的な町家など等、いろんな顔を持つ町家を現代アートの作家がより魅力的に、また別世界な空間に演出して頂けるようです。



10月27日に開幕する(土)五條新町・御所市名柄に引き続き11月1日からは郡山城下町・田原本寺内町・三輪そして、八木札の辻周辺で11月11日(日)まで開催されます。

八木の魅力は何と言っても1400年前に作られた古道を、今も生活道路として、通学路として、また祭りの舞台等として利用しながら人々の暮らしがずっと続いてきている、いわば普段着のなかに魅力的な景観や町並みがある町だと思えます。そんな八木の中で現代アートの作家が熱い想いで町家を相手に「プチ暴れ」してくれるようですので楽しみにお待ちください。

★古文書の調査



旧東の平田家は二代にわたり、八木町長をされていたこともあり八木町の町史ともいべき史料や町の文化として記憶に残しておかなければならない古文書が沢山残されています(古文書は橿原市に寄贈)。

現在、NPO八木まちづくりネットワークではこの町の大切な史料・記憶である古文書を整理、データ保存したいと考え、かねてから何かとご指導頂いています天理大学文学部教授谷山正道先生のご指導をいただいて9月より整理、保存作業を始めました。

また、戦前・戦後を八木で暮らした方々の思い出の数々もあわせて調査しています。(戦前の観光はがき)

機会があれば地域の皆様に報告会ができればと思っています。



★大和・町家バンクネットワーク

大和町家バンクネットワークは歴史的な町並み、町家が残る県下11地区のまちづくり団体が不動産団体や行政と連携して県内の空き町家の情報を一元化して、空き町家の活用をすすめることを目的としています。


地域の活性化・空家の活用にNPO八木まちづくりネットワークもバンクのメンバーとして活動を始めています。

町家のオーナーさんのご理解を得ながら一歩ずつですが成果も上がってきています。町家ぐらしの少しの不便さ、寒い、暑いも気になるかもしれませんが、八木地区の利便性の良さや暮らしやすさにくらべれば、それも季節を楽しむ工夫や今までになかった出会いや歴史と周りの自然のファンになることで、そんなに・・・とならないかも。

「空き町家」と「空き町家に住んでみたい」という方々との橋渡しができればと考えています。

大和・町家バンクネットワークの活動についてご関心のある方からの相談窓口も設けていますので、下記NPOまでお気軽にお声掛け下さい。

奈良の町家に住みませんか？



奈良の空き町家探しのお手伝い
奈良県内のNPOのネットワークで入居までをサポート
<http://nara-machiya.com>

★HANARART×八木まちあるき

11月8日(木) 橿原市観光交流センター「かしはらナビプラザ」前
午後1時30分集合

特定非営利活動法人
八木まちづくりネットワーク